

ひゅーまん ネットわーく

地域に生きる

2017年4月発行／第69号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



ジョブサイトひむろが、たかつき〇まるしえで陶芸の自主製品を販売

左上写真 坂本 亮さん 富田 祐広さん

右写真 入江 祐子さん

平成29年度 社会福祉法人 北摂杉の子会 年度方針策定にあたって



社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 松 上 利 男
まつ がみ とし お

1. 社会福祉法人を取り巻く経済・社会・制度的環境

平成29年の日本経済について、主要大手企業シンクタンクでは、実質GDP成長率を+0.9～1.1%としていて、ほぼ平成28年と同じ水準を予想しています。

総じて、日本経済の先行きについては、①実質賃金の増加、②原油安と交易条件の改善、③経済対策の実施、などの国内要因が下支え役となり、緩やかに回復する見通しであるとしています。

ただ、トランプ大統領の政策が景気を押し上げてプラスに出るか、あるいは、保護主義でマイナスに出るかは予測が難しいようです。

一方、少子・高齢化が増々進む中、今年度には団塊世代が70歳代に入って来ます。

高齢化に伴う財政支出は今後増々拡大していくことから、将来を見据えた財政経済政策・社会福祉制度改革が求められています。

社会福祉制度改革については、今年2月7日、『厚生労働省「我が事、丸ごと」地域共生本部』から「地域社会の実現に向けて」が発表されましたが、少子・高齢化社会を支える社会福祉制度改革の方向性を示すものとして、注視する必要があります。

来年度からの障害福祉関係報酬改定が今年度末には示されますが、上記に示した経済・社会環境を踏まえれば厳しい内容が示されることが予測されます。

平成29年度は、今年度から始まる「第4次5か年中期計画」の確実な実行を進める中で、引き続き「人材の確保と育成」、「支援の質の磨き上

げ」、「利用者の権利擁護の推進」、「事業の安定的運営に向けた財源の確保」とともに「固定費削減の取組」や「業務効率化に向けた業務改善の取組」も進めなければならないと考えます。

今年度は特に上記重点項目に加えて、「利用者の高齢・重度化に対する支援」「地域住民への障害理解についての啓発活動」の日常的具体的な取組の推進と「法人組織内の事業所を越えたコミュニケーションの推進」にも注力したいと考えます。

2. 「ジョブサイトひむろ・萩の杜従たる事業所」、「グループホームみやた」の移転整備、「第2レジデンスなさはら」の整備

「第3次5か年中期計画」で未達成となった「ジョブサイトひむろ・萩の杜従たる事業所」「グループホームみやた」の移転整備、「第2レジデンスなさはら」の整備については、最重点事業として引き続き取り組みを進めます。

取り組みの推進にあたっては、特に地域住民に対する障害者理解を進めることが重要であることから、行政、社会福祉協議会、地区福祉委員会関係組織との連携による啓発活動を進めます。

また、整備に向けた財源確保のための取組を着実に進めます。

3. 支援の質の磨き上げ

「障害者差別解消法」が施行され、障害のある人に対する「合理的配慮」が求められています。引き続き利用者個々の障害特性に応じた合理的配慮と支援を行います。

また、「意思決定支援」の取り組みにも注力します。利用者の意思決定を支える経験への支援

や、自己選択・自己決定できる環境づくりに取り組みます。

意思決定の基礎となる「表出性コミュニケーション支援」の取り組みに注力します。

利用者の「高齢・重度化」への対策の中で、医療的ケア・入院時の支援体制の構築が急がれます。「医療連携推進室」を中心に支援体制の構築を進めます。

自閉スペクトラム症のある人への支援については、シームレスな支援体制の構築が求められていることから、私ども法人の「広域・特化」事業についてもシームレスな支援体制づくりに努めます。

「高付加価値の生産活動の創出」については、27年10月にチョコレートと焼き菓子の専門店「LaLa-chocolat」（就労継続B型事業）を開店しましたが、運営の安定と支給工賃の向上が求められています。事業目標達成に向けた事業の更なる磨き上げを行います。

また、就労継続A型事業の立ち上げについて、継続した取り組みを行います。

4. 利用者に対する権利擁護・虐待防止の取り組み

第4次5か年事業計画におけるビジョンの1つとして、「人権を守る砦となる」を掲げました。

昨年7月、「津久井やまゆり園」において、元職員の手で19名の利用者の命が奪われ、27名の利用者が刃物で傷を負わされるという想像を絶する悲惨な事件が起こりました。

福祉事業所は、障害のある人たち、利用者の命と人権を守る砦でなければなりません。

今年も昨年同様に「権利擁護・虐待防止委員会」を中心として、利用者に対する権利擁護・虐待防止の取り組みを進めます。

また、「利用者自らの権利を知り、守る（セルフ・アドボカシー）」への支援を行います。

5. 人材確保と育成、法人内組織間におけるコミュニケーションの活性化

28年度も人材確保については、採用計画に基

づいた正職員の採用ができました。

この大きな成果として、採用活動を支える事業所を越えた職員の協力が挙げられます。今後の法人運営にとっての大きな財産になると確信しています。

人材確保についての一定の仕組みができましたが、今年度も職員の協力を得て、総力を集めて取り組みを積み上げていきます。

特に今年度は、非常勤スタッフの採用の仕組みづくりと更に意欲的に働き、学んでいただける労働環境づくりに努めます。

また、内定者研修や初任者研修については、一定の仕組みが整ってきましたが、更にその研修・教育プログラム内容の充実と中堅・管理者研修の在り方についての検討を行います。

一昨年から実施している社会福祉法人はるにれの里との「ジョイントセミナー」などの他法人との交流研修への参加など、個別研修計画に基づく教育・研修を進めます。

働きやすい環境づくりを進める上で、法人内組織間におけるコミュニケーションの活性化や情報の共有化が重要です。その取り組みを進めます。

6. 地域住民に向けた障害理解の啓発活動

「ジョブサイトひむろ・萩の杜従たる事業所」、「グループホームみやた」移転整備については、移転整備候補地に隣接する地域住民の「障害のある人・障害者福祉事業」に対する理解を得ることができず、新たな土地での移転整備を進めることとなりました。

冒頭でも述べました「地域社会の実現に向けて」の中で、私たち福祉事業者の責務として、「福祉事業者には地域社会の一員として、地域住民とともに地域づくりに取り組む責務がある」ことが示されています。

この改革の方向性は、まさに私ども法人が掲げている理念「地域に生きる」実現の方向性と同一のものです。

私たちの取り組みの不十分さを再認識して、私たち法人の原点に立ち返って、地域住民に対する障害理解を進めるより具体的、日常的な啓発活動

の取り組みを進めます。

その取り組みの一步として、早急に啓発活動を進めるためのプロジェクトチームを立ち上げて、活動を開始します

7. 安定した法人経営のための収益の確保と法人の社会的責任

「ジョブサイトひむろ・萩の杜従たる事業所」、「グ

ループホームみやた」の移転整備事業や第4次5か年中期計画における施設整備事業を確実に遂行するための財源確保に努めるなど、安定した法人経営のための収益の確保を行います。

また「公器としての社会福祉法人」との自覚に基づき、法令順守に努め、社会貢献活動を推進するとともに、透明性の高い法人運営を行います。

平成29年度 社会福祉法人 北摂杉の子会 年度方針

1. 第3次5か年中期計画未達成事業の達成

- (1) 「ジョブサイトひむろ・萩の杜従たる事業所」の移転整備
- (2) 「グループホームみやた」の移転整備
- (3) 「第2レジデンスなさはら」の整備

2. 支援の質の更なる磨き上げ

支援の質の磨き上げについては、その体制整備を含め、以下について重点的な取り組みを推進します。

- (1) 利用者個々の障害特性に応じた「合理的配慮」に基づく支援
- (2) 「意思決定支援」と「表出性コミュニケーション支援」
- (3) 利用者の「高齢・重度化」対策、特に医療的ケア・入院時の支援体制の構築
- (4) 法人内における自閉スペクトラム症のある人へのシームレスな支援が可能となる体制の構築
- (5) 就労継続支援B型事業の安定的な運営と支給工賃の向上
- (6) 就労継続支援A型事業立ち上げ検討の継続

3. 権利擁護・虐待防止の取り組みの推進

- (1) 「権利擁護・虐待防止委員会」を中心として、利用者に対する権利擁護・虐待防止の取り組みの推進
- (2) 利用者に対する「利用者自らの権利を知り、守る（セルフ・アドボカシー）」支援の推進

4. 人材確保と育成、法人内組織間におけるコミュニケーションの活性化

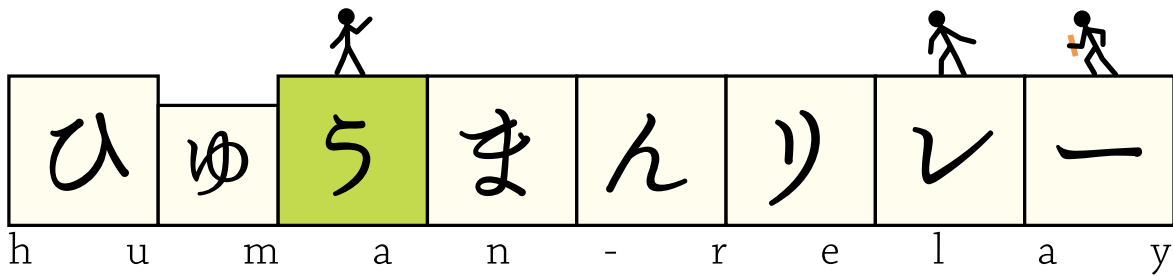
- (1) 非常勤スタッフの採用の仕組みづくりと意欲的に働き、学ぶことができる労働環境づくりの構築
- (2) 研修・教育プログラム内容の充実と中堅・管理職研修の在り方についての検討
- (3) 法人内組織間におけるコミュニケーションの活性化や情報の共有化を進める仕組みの検討と実施

5. 地域住民に向けた障害理解の啓発活動の検討と実施

- (1) 啓発活動について検討・実施するプロジェクトチームを組織する

6. 安定した法人経営のための収益の確保と法人の社会的責任

- (1) 安定した法人経営のための収益の確保に注力する
- (2) 固定費の削減や業務効率化に向けた業務改善の取り組みを推進する
- (3) 社会の公器としての社会福祉法人の自覚に基づき、法令の順守に努め、社会貢献活動を進めるとともに、透明性の高い法人運営を更に進める



障害児入所施設から見える「地域」の風景

公益財団法人 鉄道弘済会総合福祉センター 弘済学園

園長 ^{たかはし きよし} 高橋 潔さんより

「室内はゴミ屋敷で、衣類、食料品、ゴミ等で足の踏み場もない状況。室内には強い異臭が漂っており、無数の虫が見られる」。

「母親は統合失調症による自殺企図で、自宅の2階から飛び降りて骨折し、リハビリのため入院が必要」。

これらの記述は、ここ数年来、当園入所児童に添えられた入所事由の一部である。現在、福祉型障害児入所施設を利用する子どもたちが置かれている状況は、児童養護施設と寸分変わらない水準の緊急性と社会的養護を必要としている。

一方で、「危険認識がなく、車道に飛び出す。頭を叩く、手首を噛む、爪を剥ぐ自傷あり。母と姉に対しては、噛み付く、蹴る等の他害あり」といった記述もある。思春期の激しい行動障害に対しては、学校も家庭も打つ手が見つかりにくい。時に、母親を抑うつ状態に追い込み、病に伏すか、手を挙げさせてしまう事態を招けば、親子は入所施設に駆け込むことになる。

地域福祉サービスに関わる市町村圏域に比べ、児童相談所を経由して児童福祉施設に入る子ども

たちの出身地は、広範囲にわたっていることが多い。すると、生まれ育った「地域」の学校には属さないまま、学齢期のほとんどを家庭から離れた遠隔地で過ごさざるを得ない。施設を巣立った後も、出身地に戻ることは、ほぼない。同様に、入所施設に子どもを預けた保護者からは、地元の学校PTAや親の会に距離を置いてきた立場で肩身の狭い思いをしている、との声も聞く。

「障害児入所施設における平成30年問題」と呼ばれる社会問題をご存知だろうか。昨秋の日本知的障害者福祉協会による緊急調査によれば、障害児入所施設の利用年限18歳を超えても児童施設を利用せざるを得ないでいる成人利用者（加齢児と呼ばれている）は、全国で1,220人を数えるとの結果が示された。これは、2012（平成24）年の改正児童福祉法を受けた経過措置（6年間の猶予）をもってしても未だ移行ができず、期限の2018（平成30）年3月末以降は利用継続ができなくなると見込まれる「障害福祉サービス待機者」の現時点での人数でもある。この法改正の意図そのものは、成人利用者の人権擁護の立場から長

年切望されていた改正点であった。しかしながら、現実には、移行年齢を迎えてもなお「行き場が見つからない」重度知的障害・強度行動障害を示す加齢児が、特に都市部（その多くは関東地区）に集中し、実は、隠れた社会問題となっていたのである。

本年3月の障害保健福祉主管課長会議では、この経過措置のさらなる3年延長が示された。しかし、毎年生み出される「18歳」利用者のスムーズな地域移行と地域福祉サービス利用には、移行支援システムの確立と社会資源の充足による恒久的な解決こそが望まれるのである。

現在、「保育所の待機児童」は約2万3千余人*1、「特別養護老人ホームの待機者」は約36万6千人*2と言われている。それに比べれば、障害児入

所施設の加齢児は、ほとんど認知されないほどミクロな数であるかもしれない。しかし、福祉に対するニーズに地域のサービス量が釣り合っていない点においては、全くの相似形の社会問題なのである。

地域移行の受け皿となるグループホーム、特に、重度・強度行動障害の利用者に対応できる重装備のホームの供給量は、各地域において、十分な状況なのであろうか。

福祉のニーズとサービス量とが、適正なバランスをもって釣り合い、誰もが望む時に、望む形と量の障害福祉サービスを楽しむ日は、いつになればやって来るだろうか。

*1：朝日新聞（2月8日朝刊）「『保育園落ちた』悲鳴また」より

*2：朝日新聞（3月28日朝刊）「特養入居待機36万6千人に」より



地域における包括的支援体制の構築をめざして ～地域連携を考えて～



住宅工房 光

代表 まつ お 松 尾 ひろし 宏 さんより

北摂杉の子会様と私との出会いは、ジョブサイト
ひむろ様の内装工事が始まりで御縁を頂きました。

私の次男（現在18歳）も知的障害者ということ
もあり、知的障害者支援施設の工事ということも十
分理解できました。杉の子会様の意向や施設ス
タッフ様の意向も伺いながら、とにかく利用者様がよ
り良く快適に過ごせるようにしたいとの思いから、極
力実現できるよう私も微力ながら施設改善のお手
伝いをさせて頂きました。その後いろいろとお声を
掛けて頂き今日まで御縁を頂いております。仕事と
しては自閉症療育センターLink開設に伴う内装工
事、こども発達支援センターwill移転に伴う内装
工事、こども発達支援センターaz開設に伴う内装
工事、児童デイサービスセンターanの床改修工事
など施設改善のお手伝いをさせて頂きました。

建築工事は危険な為、子ども達がいらない施設の
お休みの日の作業になります。私自身いつも思う事
ですが子ども達の顔が見えない分、出来た後どう
思ってくれるかな？「良くなった」「綺麗になった」
と言ってくれるかな？と利用する子ども達の顔を浮か
べながらお仕事させて頂いています。作業を進め
ていると「この仕事は楽しくやりがいのある仕事だ
なあ」と感じます。

今後も利用者様のセーフティを第一に考え、過ご
しやすくより良い通所施設にと私もスタッフ様の一員
同様として、力及ばずながらも施設改善に協力さ

せて頂きたいと思っております。

また私事ですが、建築業を営みながら趣味の一
つとして木工の装飾品を製作しています。原案、
原稿スケッチ、ラフ、木工細工、塗装と一連の作
業を1人でするので非常に時間が掛かりますが、
楽しく取り組んでおります。今までの作品を少し紹
介させて頂きます。



私ども親子が通っていた幼稚園の
60周年記念式典記念ボード



飲食店舗 店頭飾り



京都老舗野菜店舗店頭飾り



自宅の玄関飾り



ゴルフ場50周年記念 受付ロビー大型壁飾り

☆ 田坂オーナーへのインタビュー ☆

今回は阪急高槻市駅から徒歩3分の立地で、初めて訪れても、どこか懐かしい感じのする立ち飲みスタイルのスタンディングバー「NIKKA SHOT BAR（ニッカショットバー）」を経営されている田坂祐樹さんにQ&A形式でインタビューを行ないました。NIKKA SHOT BARでは、当法人が運営しているチョコレート&焼き菓子専門店「LaLa-chocolat」の人気商品である「テリーヌ」を販売していただいております、とても関わりの深いBARです。

Q. まず、田坂さんの簡単な自己紹介をお願いします。

A. NIKKA SHOT BARの田坂です。お酒が好き過ぎて、この仕事に就きました。好きなものに囲まれて、幸せな生活をしております。今回はこのような機会をいただき、ありがとうございます。バーテンダーでありながら話すのは苦手ですが、よろしくお願いします。

Q. NIKKA SHOT BARのオーナーになられて、何年になりますか？

A. お店のオープンとは2008年で、今年で9年目となります。オープン当初は、オープニングスタッフとしてアルバイトで入り、2年目で店長となりました。7年目より独立させていただき、現在になります。

Q. NIKKA SHOT BARのお店で大切にしていること、コンセプトなどがあれば、教えてください。

A. 国産ウィスキーのNIKKAを、より多くのお客様に楽しんでいただきたのが一番ですね。地域限定のNIKKAウィスキーも取り揃えております。

Q. LaLa-chocolat店舗がOPENしたのをいつ頃知られましたか？また、LaLa-chocolat店

舗のイメージについて、お聞かせください。

A. NIKKA SHOT BARがオープンした当初から、北摂杉の子会の現理事長である松上さんが、お客様としてご来店いただいているのがきっかけです。「今度、うちの法人でLaLa-chocolatがオープンするよ。」と教えていただきました。

店舗は非常に高級感があって、宝石を選ぶような感覚になりますね。また、就業訓練としてのクオリティが非常に高いなって感じました。

僕の一番好きな商品は、オレンジにチョコレートがかかった商品（オレンジエ）です。

Q. LaLa-chocolatのテリーヌを、お店でも販売しようと決めていただいたきっかけはなんですか？

A. もともと、個人的にLaLa-chocolatさんにチョコレートを買に行っていましたので。ファンです！お店でも置きたいなって思っていたところ、松上理事長からお声かけをいただきましたので、「ぜひ!」ということになりました。

Q. LaLa-chocolatのチョコレート&焼き菓子の各商品を、障がいのある方たちが製造していることを知って、どのように感じられましたか？

A. 正直な感想としては「へえ、そうなんだ…」位の感じでしたが、チョコレートを食べ、クオリティの高さに驚きました！

お店に入ると、中の様子も全て見えますが、皆さん真剣に、そして楽しそうに製造されているのが印象的です。

また、福祉を前面に押し出さずに営業されていることにも、好感がもてます。

Q. 最後に何か、メッセージをお願いします。

A. いつも美味しいチョコレートを届けていただき、ありがとうございます。

僕も1ファンとして、これからも新しい商品の登場を心待ちにしていますので、チョコレート作り、頑張ってください!!

とても気さくなオーナーさんで、今回の機関紙掲載のお話をさせていただいた際も、「ぜひお願いします」とおっしゃってくださいました。

NIKKA SHOT BARでテリヌを置いていただくことが決まり、BARの常連のデザイナーさんに、とてもおしゃれなチラシを作成していただきました。それがきっかけとなり、販売促進のチラシ作りなどご協力いただいています。

こうして地域の中でいろいろな方とのご縁を大切に、地元高槻の地域に溶け込んでいけたらと思っております。

これからもお店運営の先輩として、そして地元高槻と一緒に盛り上げていくチームとしても、どうぞよろしくお願いいたします。

インタビューー 木戸 貴之 (LaLa-chocolat TAKATSUKI 管理者)



第4次中期計画(2017年4月～2021年3月)策定にあたって ～更なる成長と創造、地域貢献(地域を耕す)を目指して～

私たち「北摂杉の子会」は、1998年2月に法人を設立し、「地域に生きる」という理念の下、「地域・一般化」「広域・特化」という二つのミッションに基づいて、法人経営を行ってきました。

この法人の理念とミッションの実現に向けて、1999年4月の生活施設「萩の杜」開設以降、障がいのある人たちのニーズに向き合いながら、必要とされる支援サービスの創造と提供を行ってきました。

法人設立から18年を経過した今、「地域の中で、障がいのある人たちが継続して普通の暮らしができるための必要とされる支援サービスを創造する」という私たちの理念とミッションに基づいた支援サービスの創造と福祉事業所の整備を積み上げる中で、必要最低限の機能は実現しつつある段階に入っていると考えています。

さて、第4次中期計画作成にあたっては、社会福祉法人・福祉事業所を取り巻く経営環境についての認識を深める必要があります。

現在の社会福祉法人・福祉事業を取り巻く経営環境は、社会福祉財源問題を中心として、大変厳しい状況にあります。消費税の再延期(2019年10月の予定)により、更に財源問題では、厳しさを増してくると思われます。

すでにその財源確保について、国や福祉関係団体等の関係者の中では、福祉サービスの利用に際しての利用者からの応能負担や介護保険の財源活用など、議論が始まっています。

また、福祉人材の確保についても厳しい状況が続いていることから、新規事業の立ち上げに伴う施設整備補助金の確保や人材の確保は厳しくなると予想されます。第4次中期計画の策定にあたっては、そのリスクを十分に踏まえた検討が必要となります。

一方国の福祉政策に目を向けると、財源確保が

厳しさを増す中で、全体的なバランスを考えた報酬単価の設定から、重点施策へ報酬単価や加算を厚くする傾向が顕著になっています。

具体的には、重度障がい者、特に強度行動障がい者に対する支援の重視、就労系事業に対する成績主義・実績主義に基づく加算の強化、福祉専門職員の積極的配置に対する加算の強化などが上げられます。

増々増加する発達障がいのある人たちのニーズに対応する対策も強化されることが予想されます。

また、障がい福祉政策の流れは、施設などのいわゆる「箱もの福祉」から地域ベースでの支援(在宅支援)へとその流れが加速されることが予測されます。

そして、障がい・高齢福祉、保育、医療領域の垣根が増々低くなっていくことも予測されます。

「障害者虐待防止法」や「障害者差別解消法」の施行により、利用者への人権への配慮、障害特性の理解に基づいた支援と環境の提供(合理的配慮)、意思決定の支援など、利用者のニーズを中心に据えた支援など、支援者にはより専門性の高い支援と対人援助専門職としてのより高い人権意識と倫理観が求められます。

法人としては、より質の高い人材の確保と育成に注力しなければなりません。組織マネジメントとしての「人的資源の開発・管理」について、第4次中期計画作成作業の重点検討課題としなければなりません。

国が進めている社会福祉法人改革で求められている組織ガバナンスの強化や地域貢献の推進は、「公器としての社会福祉法人」の原点に立ち戻ることが示唆されています。

私どもの法人としては、設立以来そのことを経営の原点としてきたと自負していますが、より一層の

努力を積み上げる必要があります。

「制度に従うのではなく、制度を活用する」、「制度に向き合うのではなく、ニーズに向き合う」という法人経営のミッションというべき視点で、特に大変重い知的障がいのある人たちや発達障がいのある人たち、重い知的障がいと身体障がいのある人たちの支援に取り組んできましたが、前述したように国の福祉政策の流れは私たちにとって追い風となっています。

第4次中期計画の策定にあたっては、法人の理念・ミッションとともにこの法人経営の視点を含めたビジョンを提示したいと思います。

また、法人のステークホルダーとしての地域住民（納税者）のニーズへの対応、情報の発信も重要な課題になると思っています。

第4次中期計画策定のキーワードとして、「更なる成長と創造、地域貢献（地域を耕す）」を掲げました。

このキーワードは第4次中期計画のビジョンを考える上での枠組みとなります。

前述したように法人開設から18年が経過し、私どもの理念とミッションに基づく経営を通して、障がいのある人たちに対する支援については、まだまだ不足しているサービスがありますが、一定の機能が整えられたと思っています。

ここに掲げた「更なる成長」が意味するところは、「更なる質の磨き上げ」であります。

それは、マネジメントの質、財務の質、支援の質、人財の質、設備・環境の質、パートナーシップの

質の更なる磨き上げを意味しています。

「更なる創造」は、利用者、地域のニーズをベースとして、不足している支援サービスの創造を意味しています。

この「更なる創造」は制度にない新たな支援サービスも含めての「更なる創造」です。

「更なる地域貢献（地域を耕す）」は、上述した「更なる成長と創造」を通しての地域貢献を意味していますが、私ども法人の強みを活かしての地域貢献であり、その領域でのリーディング法人を目指すことにあります。

また、カッコつきで「地域を耕す」としましたが、法人理念である「地域に、生きる」の具現化、即ち「地域の中で、障がいのある人たちが普通の暮らしを継続できる社会の実現」に向けて、様々な団体や機関、人びととの連携、パートナーシップの構築を目指すという意味です。

今回の第4次中期計画の策定にあたっては、若手中堅職員を中心とした中期計画策定プロジェクト（6名）を組織し、法人内外のニーズや実践、福祉制度の動向などの調査（視察）を通して、先ず第4次中期計画の「ビジョン」の策定しました。その「ビジョン」は、以下に掲載しております。

この「ビジョン」をベースに、各事業所においての議論を通して、具体的な計画案に落とし込み、運営会議、経営会議での検討を通して、事業所ごとの第4次中期計画をまとめ、ミッションがスタートしています。

中期計画ビジョン策定までの経緯

第4次中期計画策定プロジェクトリーダー ジョブジョイントおおさか所長

社会福祉士・保育士 星^{ほし}明^{あき} 聡^{さと} 志^し

ビジョン案（以下、ビジョン）の策定については、以前の機関紙にも記載させていただいたとおり、法人内で集められたプロジェクト（以下、PJ）メンバーで定期的に会議を行い、策定に向けて取り組んでいきました。メンバーは以下の6名です。

- ・星明聡志（ジョブジョイントおおさか、ジョブジョイントおおさかたかつきランチ所長）
- ・小林哲理（医療連携推進室長）
- ・伊名岡宏（レジデンスなさはら主任）
- ・櫻本善大（総務部主任）
- ・徳野朱南（自閉症療育センターLinkサービス管理責任者）
- ・小谷翔（こども発達支援センターwillサービス管理責任者）

進め方としては、図1のとおりで、業務が落ち着いた17時から集まって合計で10回程度の会議を行いました。

まず、SWOT分析（企業や事業の戦略策定や、マーケティング戦略を導き出すための有名な分析のフレームワーク）では、高槻を地域拠点とする「地域・一般化」と十三を地域拠点とする「広域・特

化」の2つで、当法人の強みや弱み、機会や脅威について所属する管理職・中堅職員で意見を出し合ってもらいました。それをさらに細かく分析するクロス分析を実施し、たくさんの意見をメンバーで確認しながらビジョン策定にあたって必要となりうるキーワードの抽出。図2のように「強み×機会」「強み×脅威」では、今後の法人運営においてプラスに働くであろうキーワードを確認できましたが、一方で「弱み×機会」「弱み×脅威」に書かれているキーワードは、職員間でも現状の課題として認識されていることが見えてきました。

また、職員との意見交換では、総務部や部署の管理者、現場職員それぞれに集まってもらい、合計5回の意見交換会を実施。ご家族へのアンケートでは、現在のことや将来のことなど、事業所や法人に対してたくさんの意見をいただきました。

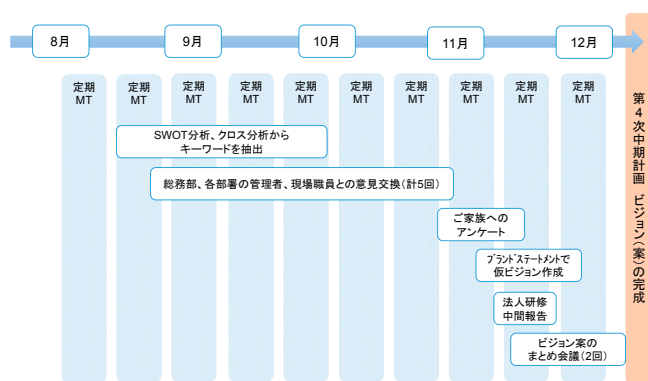
このように、SWOT分析、意見交換会、アンケートからたくさんのご意見やキーワードが見えてきたため、メンバーで話し合いながらキーワードとなりうるものを抽出。ここでは、ブランドステートメント（企業や法人がブランドを掲げる理念や使命を簡潔な文と

して表したもの）のフレームワークを活用して、ご利用者やご家族・関係者が目指す法人の姿をまとめ、信頼や安心を与えられるような仮のビジョンを作成できるよう努めました。

ここまでは、様々な場面やテーマの中でビジョンについて検討をしてきましたが、当法人がライフステージごとに幅広く福祉サービスを提供していることから、ご利用者、ご家族、働く職員からのご意見も幅広く、どのようにしてビジョ

図 1

プロジェクトの進め方



ンをまとめていくかについて、次第に難しさを感じることも多くなってきました。

メッセージ性があり、シンプルでわかりやすいビジョン策定を目指していましたが、メンバーだけでは理想に近づけていくことが難しく、理事長や副理事長等経営陣と相談をしていく中で、経営陣とのビジョンのまとめ会議を実施することとなりました。

この会議の狙いは、合意形成のコンサルタントでおられるパブリック・ハーツ株式会社代表取締役の水谷香織さんにも入っていただくことで、今までの意見や経営会議メンバーの意見を改めて出し合い、カテゴリーごとに重要となりうるキーワードをまとめることです。そして、最後は改めて出たそれらのキーワードをもとに文章を作成し、最終のビジョンとしてまとめていきました。

ビジョン策定までの経過について改めて振り返ってみると、日々の業務の忙しさやビジョンをまとめる難しさ等大変さもありましたが、PJとして法人内の元気ある若手職員と一緒に検討することができた時間は、とても充実したものでした。それに、当法人のことを改めて多面的に見ることができたのは、自分自身にとってもとても貴重な機会となりました。

今回、ビジョン策定の役目をいただいて改めて感じたことがいくつかありました。ひとつは、当法人で働くスタッフは皆、ご利用者の人権をなによりも大事にして仕事をしているということ。そして、1人ひとりとても熱心に一生懸命に働いており、スキルの高い人材が豊富に揃っていること。これは、これからの法人の未来を考えていく上でとても大きな強みになると感じています。

国の施策や世の中の動向、経済状況等についても、適宜議論をしてきました。世の中の状況から考えてみると、この先はまだ不安定なことが多くあるように感じますし、当法人が事業運営していく中で試練となりうることも多々あるように感じます。ただ、当法人が働く全員のスタッフを大切にし、必要な

スキル習得に向けて戦略的で長期的に育成していくことは、世の中の状況が多様に変化しようとも、柔軟でタフな法人として成長し続けることができると思います。

ご家族からのアンケートにもありましたが、当法人のご利用者やご家族のニーズはとても多様で、中には喫緊の課題も含まれているように感じました。それらに対してしっかりと応えていくには、支援の質を向上させていくとともに、多様で新しいニーズにもできるだけ応えていけるよう、法人全体が成長し続けることも重要です。地域に生きるの理念のもと、法人設立当初から掲げられている「ニーズベースでの支援」を実践し続けることができるよう、いつもニーズに敏感で柔軟であり続けていきたいと感じました。

今回のPJを通して、いろんな角度から法人のことを見ることができ、私自身とても勉強になりましたし、なによりも法人がこれからも益々発展していけるよう、自分自身も一生懸命努力したいと強く感じました。この場を借りまして、ビジョン策定PJという貴重な機会をいただき、心から感謝を述べたいと思います。

今後は、ビジョンをスタッフ全員にしっかりと浸透できるよう努めるとともに、ビジョンどおりに各部署が事業を運営しているかモニタリングすることも意識しながら、ビジョンの実現に向けて日々努力していきたいです。

図 2

SWOT分析から見てきたキーワード

強み×機会

- 自閉症支援
- コンサルテーション
- 各ライフステージに対応
- 医療的ケア
- 職員数
- 若い集団

強み×脅威

- 人材育成
- 権利擁護、虐待防止
- 高い人権意識
- 障害福祉(自閉症・発達障害・知的・重身・療育・相談)に特化した多事業展開
- 女性の産後の復帰率

弱み×機会

- 高齢化
- ITの活用
- アウトプット力
- 専門性の活用
- 事業所間の連携
- 行政との連携
- 財務力

弱み×脅威

- 重度化
- 高齢化
- 退職しない職場づくり
- 財務力
- 透明性のある事業実施・展開

第4次(2017～2021年)中期計画のビジョン

◆ キーワード

更なる成長と創造、地域を耕す(地域貢献)

1. 実現します、生涯にわたる地域での暮らしを。
2. 目指します、人権を守る砦となることを。
3. つくります、働く人のチャレンジと成長を支える組織を。
4. 耕します、やさしさあふれる地域を。
5. 構築します、健全でタフな財務基盤を。

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

(1) ニーズベースでの支援

- ① 制度に無いからでなく、もれない支援を提供できている
 - ② 重度・高齢化に対応できる
 - ③ 利用者満足度96%を常に維持する
- #### (2) 生涯にわたる支援
- ① 早期から看取りまでの支援が提供できている
 - ② 一人暮らしやグループホーム等での多様な暮らしの実現推進
- #### (3) 地域で豊かに暮らす事が出来る支援
- ① 地域生活支援(地域生活支援センター・居宅介護・余暇支援・訪問看護・行動援護、重度訪問介護等)の実施と拡充
 - ② 地域の他機関とのパートナーシップを更に強化する(複数の連携会議や共同企画の実施ができている)

2. 人権を守る砦となる

(1) 質の高い意思決定支援

- ① 全事業所での「表出コミュニケーション支援(PECS等)」の確立
 - ② 全利用者の意思決定支援会議が開催されている
 - ③ 本人中心主義(パーソンセンタード)の追求
- #### (2) 利用者、保護者の高齢化を見据えた支援の創造
- ① 成年後見制度の連携等による推進
 - ② 介護・医療機関とタッグを組む
⇒ 介護・医療機関の双方と協働企画を実施
- #### (3) 権利擁護・虐待防止で日本一
- ① 合理的配慮に基づく支援の追求
 - ② 「利用者自らの権利を知り、守る(セルフ・アドボカシー)」への支援の追求
 - ③ 権利擁護・虐待防止委員会の発展

⇒ 権利擁護・虐待防止委員会活動の実践発表等の全国発信と連携

④ 地域住民向け勉強会の定例実施

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

(1) 職員が生き生きと働ける風土

- ① 職員の多様な働き方(時短・子育て・介護・闘病勤務・復職・障がい者雇用・在宅勤務)を推進する
- ② 職員満足度の高い職場となる(満足度調査の実施)
- ③ 法人内外・海外の活発な人材交流・研修
- ④ 働く人の心身健康増進を組織的に取り組んでいく

(2) 働く人が成長できる組織

- ① 戦略的なジョブローテーションの稼働と定着
- ② 職員のキャリアパスの確立(専門職制度の確立)
- ③ 法人内外・海外研修の充実

(3) チャレンジする組織

- ① 女性マネージャーの積極的登用
- ② 横断的なプロジェクトチームが複数できている
- ③ 法人戦略を担う新たな部署の創設
⇒ 「地域を耕すプロジェクト」の創設

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- ① 地域に還元できる実践の発信(コンサルテーション、市民向け講座)
- ② やさしさあふれるコミュニティの共創
⇒ 障がい児・者を支える地域のコミュニティづくりやノウハウ提供などのサポートの実施
- ③ 互いに理解し合える地域づくり(地域のニーズ把握、出前講座)

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 事業が持続可能となる安定した財源の確保

- ① 各事業における収益目標の具体的な設定
 - ② 各事業の業務分析による固定費削減目標の設定
- #### (2) 戦略的投資ができる財務体質

- ① 将来の新規事業のための財源が確保できている
 - ② 採用・人材開発への積極的な投資ができている
- #### (3) 職員一人ひとりが財務への興味を持つ

- ① 財務に関する勉強会や研修の開催
- ② 各事業所の財務状況について進捗管理を確実に進める

ペアレント・メンターとの協働による 家族支援への取り組み



大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか

相談支援員 精神保健福祉士 社会福祉士 内田 郁江

■ はじめに…

アクトおおさかでは、発達障がい児者の家族支援の地域における充実を目的として、ペアレント・メンター事業の統括を行っています。当センターにコーディネーターを配置し、事業の運営、ペアレント・メンターの養成および活動のサポートを行っています。

ペアレント・メンターとは「発達障がいのある子どもを育てた経験を活かして、他の保護者のよき相談相手となり、悩みの共感や助言等ができるペアレントメンター研修を修了した先輩保護者」です。現在、その養成を36都道府県が実施しています。発達障害者支援法の改正で示されている「家族を含めた、きめ細やかな支援」の推進については、今後益々重要になってくると思われます。

■ ペアレント・メンター養成研修の実施について

平成26度よりアクトおおさかでは、「大阪府ペアレントサポート事業」としてペアレント・メンター養成研修を実施しています。受講していただく方は、「大阪府発達障害団体ネットワーク」に加盟している親の会(11団体)に所属し、2年以上の活動実績があり所属団体からの推薦をうけた方としました。

養成研修は、主に下記のペアレント・メンターの4つの役割に基づいてプログラムを構成しました。

●同じ親として仲間の子育ての悩みに寄り添い共

感する

- 発達障がいとその支援に関連する情報と経験を分かち合う
- 発達障がいについての情報を提供する
- その地域の社会資源についての情報を提供する

<養成研修の内容>

◆ベーシック研修(2日間)

- ・発達障がいの基礎知識
- ・発達障がいの家族支援について
- ・リソースブックと地域活動
- ・相談技術の基礎知識

◆フォローアップ研修(1日)

- ・行政報告(教育・労働・福祉)
- ・グループ相談(講義・実技)
- ・ストレスマネジメント

■ メンター活動について

研修受講後、メンター活動を希望される方は事務局に登録していただき、事務局が派遣調整を行っています。現在、メンター登録者は41名(平成29年3月現在)で、登録者には「活動に関するアンケート」を実施し、活動可能な日時、場所、得意な活動内容などを事前に情報収集しています。それをもとに市町村からのメンター派遣依頼のニー

ズとのマッチングを慎重に行いました。また、個人情報保護に関する留意点の確認や準備期間を十分に取れるよう配慮すると共に、事前の打ち合わせも十分に行い、メンターが安心して活動していたできるよう努めています。

■ 成果

平成27年度では3ヶ所、4名、平成28年度では10ヶ所、6名のメンターが活動を行っています。活動時に実施したアンケートでは、参加された98%の保護者が「とても参考になった」「参考になった」との感想でした。下記に、メンター活動を通して、参加者の感想と活動されたメンターの感想の一部とアンケート結果の一部を紹介します。

参加者の感想

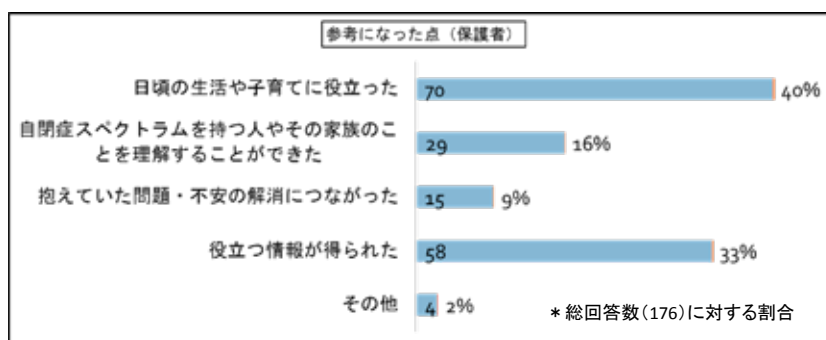
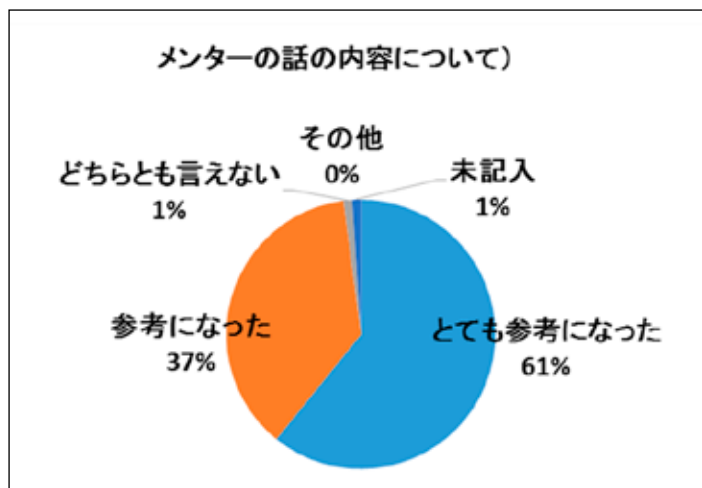
「自閉症のお子さんを育てられている大先輩のお話、すごくためになりました。私自身見通しが持てたことで、将来の不安が少し和らいだ気がします」

「子どもを育てていくにあたって、丁度考えていたことや、知りたかったことを聞けた」

メンターの感想

「親の立場だからこそ伝えられることもあり、若い保護者にとって将来のビジョンが少しでも明るいものになれば嬉しい。」

「資料作りをしていくうちに、支援してきたことを振り返り、今後の子育てや地域の保護者・子どもへの支援の活力となりました」



■ まとめ

ペアレント・メンター活動は、発達障がいへの啓発や家族支援を目的とした研修・講演会だけでなく、教育機関や支援者向けの啓発の場など、活動の

場が広がりつつあります。

今後も、ペアレント・メンターの皆様や市町村等、関係機関と連携しながら、発達障がいの理解と家族支援の充実を目指していききたいと思います。

特別プログラムの実施について ～「体験+整理+共有」で理解を深める～



ジョブジョイントおおさか たかつきランチ

主任 サービス管理責任者 社会福祉士 やま だ ゆたか
山 田 優

■ プログラム実施の背景

ジョブジョイントおおさか（以下JJ）では、自閉症スペクトラムの方に特化して就労支援を行っています。JJでは、働く上で必要となる知識を得ていただく講座プログラムと作業を通してスキルアップを図ったり、自己理解を深めるための作業プログラムを提供しています。講座のプログラムなどは繰り返し行うことで理解が深まる一方で、マンネリ化しやすい傾向もあり、新たなプログラムを実施し、ご利用者の意欲を向上させたり、新たな一面を見れるような機会を作る必要がありました。また、ご利用者の中にはどうしても受け身になってしまい、なかなか主体的に就職活動を進めることが難しい方もいらっしゃるため、主体的に取り組めるようなプログラムを作っていきたいと考えました。

そして、ご利用者が主体的に取り組めるプログラムを考えるにあたって、「就職活動をする上で、興味関心を広げること」「他者の話を聞いて知識を広げたり、理解を深めること」の2点をポイントに内容を検討しました。



発表会の様子

■ プログラムの概要

①企業研究講座発表会

〔プログラムのねらい〕

- ・新しい講座としてを始めることで、マンネリ化を解消する
- ・グループワークを中心に進め、ご利用者の主体性・協調性の向上を図る
- ・発表をすることで、各グループの経験を共有できるようにする

〔対象者〕

- ・発表者：就労移行支援事業のご利用者（20名程度）
- ・参加者（聴講者）：全利用者、ご家族

〔実施期間〕

- ・企業研究：平成27年5月～7月
- ・発表会：平成27年7月18日

〔実施方法〕

1. 5月にガイダンスを実施。グループに分かれて研究する業界・企業を決める。
2. グループで選んだ企業について調べる
3. グループごとに選んだ企業に見学に行く
4. 企業見学で得た情報と、自分たちで調べたことを整理し、発表資料を作成する
5. 7月に発表会を開催し、各グループで調べたことを共有する

※発表会には講座には参加していなかった自立訓練事業のご利用者やご家族も参加できる形にしました

②先輩のハナシ+企業実習報告会

〔プログラムのねらい〕

参加者：他のご利用者がどのような経験を積んでいるのかを知ること

実習や就職活動の進め方、どのように先輩たちが働いているのかなどの具体的なイメージをつかむこと

発表者：自分の経験したことを振り返り、整理することでさらに自己理解を深める

〔対象者〕

発表者：卒業生2名、実習経験者4名

参加者：全ご利用者、ご家族

〔実施日〕

平成28年1月30日（土）

〔実施方法〕

- ・卒業生に発表を依頼し、「JJで取り組んだこと」「就職活動の進め方」「どのように働いているか」「働く中で感じていること」について話していただく
- ・実習経験者に発表を依頼し、「これまでの経過」「どんなところに実習に行ったか」「実習を経験する中で学んだこと」などについて話していただく

■ 成果として

〔企業研究講座〕

事前に業界研究をした上で、小グループに分かれて企業見学を行ったことで、従来の企業見学よりも、ご利用者自身がより企業に興味を持って参加することができ、理解を深めることに繋がったと思います。グループワークがストレスになる方もいらっしゃいましたが、役割分担を意識しながら協力して研究を進めることができるなど、ご利用者の新たな面を確認することにも繋がりました。最後に発表会をすることで、それぞれの経験を共有することができ、また他者の感じ方や考えを知る機会にもなりました。

〔先輩のハナシ+企業実習報告会〕

卒業生の話を聞くことで、なかなか見通しを持ちにくい就職活動がどんな風に進んでいくのかを具体的にイメージできたり、実際に働く先輩が実感している働く上で大切なことなどを知ることができ参考になったと感じた方が多くいらっしゃいました。企業実習の報告については、参加者に様々な実習先での様子を知って

いただくことができたり、発表者がこれまでの経験を整理する機会となり、自己理解を深めることにも繋がりました。

〔2回の発表会を通して〕

どちらのプログラムも「経験したことを整理し、アウトプットする」というプロセスを大切にして取り組んでいたできました。そのプロセスを踏むことで、より理解が深まったり、自信に繋がったとおっしゃる方も多く、良い経験を積んでいただけたと感じています。

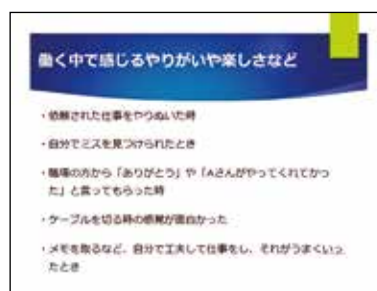
■ 今後に向けて

今回実施したプログラムは、ご利用者の満足度も高く、効果も感じられるものだったため、ブラッシュアップ（磨き上げ）を図りながら継続して取り組んでいきたいと思っています。

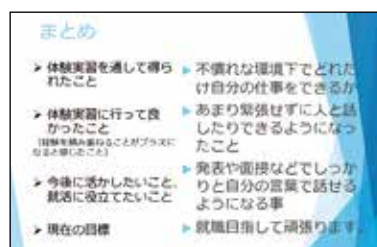
また、今後もご利用者の状況やニーズを確認しながら、ご本人たちが楽しんで参加できるプログラムをスタッフ間で検討し、新しいプログラムを提供していきたいと思っています。



企業研究の発表資料



先輩のハナシの資料



実習報告会の資料

バレンタイン大作戦

関西学院大学の学生さんがLaLa-chocolat Takatsuki
(ララ・ショコラたかつき)の販促を考えたら…

医療連携推進室 室長 作業療法士 小 林 哲 理

♥取り組みのきっかけ ～人材育成をどうする？～

せっかく大学で高度な知識を身に付けても、社会に出て実践の場で活かしきれないことがあります。

経済産業省は、実践の場で活かすことができる力として「社会人基礎力」（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の育成を推進しています。当法人でも、「社会人基礎力」の育成について、常に議論しているところです。

「社会人基礎力」を育成するために、大学では「課題解決型授業（PBL：Problem-Based Learning）」というものが盛んに行われています。「課題解決型授業」とは、身近な問題や事例を材料としながら具体的な問題解決に向けて、チームで学習していく方法。現実の社会では、様々な価値観があり、正解がひとつではないことが多くあり、皆が主体的・能動的に知識を持ちあって議論し、解決方法を導きだしていくことが求められます。ご縁があって一緒に勉強会をさせていただいている関西学院大学人間福祉学部の安田美予子教授は、「主体的・能動的に解決方法を導き出すことができる福祉の人材を育てたい!」とお話をされています。その想いが当法人の人材育成のあり方と一致し、法人から課題解決型授業を安田先生に3案提案しました。実施することになったのは、その中でゼミの主旨に最もあっていた、就労継続B型事業所LaLa-chocolat/TAKATSUKI（ララ・ショコラたかつき、以下ララ・ショコラ）の「ディーセントワーク」を考えるものです。

♥北摂杉の子会が進めるディーセントワーク

～「ディーセントワーク」って何？～

ララ・ショコラでは、「ディーセントワーク」の実現をミッションに掲げ、ご利用者の働きに見合った工賃が支払えることの実現を目指しています。ディーセントワークとは「働きがいのある人間らしい仕事」のことを言います。「働きがい」を感じるためには「仕事に誇りをも

つこと」「働いて適切な対価を得ること」など労働の基本的な原則や権利の尊重、促進・実現が必要です。しかし、障がいのある人に対しての現在の労働環境には厳しいものがあります。どんなに障がいが高くても働く権利がある、働く意味がある、そして働きに見合う工賃が支払われる必要がある。ディーセントワークの実現にはそんな熱い想いがあります。

そこで今回は、「ララ・ショコラでのディーセントワークを進めるために、バレンタインデーにおいて売上を伸ばし、工賃を上げるための工夫を考えていただくこと」としました。

♥実際の取り組み

～バレンタイン大作戦・関西学院大学の学生さんがララ・ショコラの販促を考えたら…～

ゼミの学生さんは3回生の12名。「くまさんチーム」6名と「うさぎさんチーム」6名にわかれて企画を争いました。「くまさんチーム」は店舗の陳列やチラシのデザインについて、「うさぎさんチーム」はバレンタイン特



プレゼンテーション

別包装について考えました。市場調査として、法人のある高槻で「ララ・ショコラのことをご存じか?」「障がいのある人がつくっていることを知っているか?」「印象は?」「どんなチョコレートだったら買いたいか?」など、街ゆく人にインタビューをしました。ご利用者にも「どんな想いでチョコレートをつくっているのか?」「働くことは楽しいか?」「工賃はどんな風に使いたいか?」など質問されました。学生さんは、ララ・ショコラのことを知っていくうちに、障がい福祉の仕事への理解や愛情を深めていったようです。

それぞれのチームは、インタビュー結果を大学に持ち帰り、具体的なチラシデザインや店舗陳列、商品特別包装について検討しました。私たち法人職員もゼミでの検討にオブザーバーとして参加しました。3か月の検討を経て試作品を作成し、当法人の理事長とララ・ショコラの管理者の前でプレゼンテーションを行いました。「うさぎさん」チームは地産地消の活用やジョブサイトひむろの陶器の活用を、「くまさんチーム」は点字を用いたチラシや誰にでもわかりやすい商品説明プレートを考案してくれました。どちらも、学生らしい新鮮な企画提案でしたが、「地域に根差した視点」がより明確であった「うさぎさんチーム」が勝利しました。

♥学生さんの振り返りより

この課題解決型事業を通して学んだことについて学生さんにアンケートをとりました。以下いくつかの感想を抜粋して紹介します。

「障がい者の就労施設というと、おしゃれなイメージなどなく、機械的に与えられた仕事をこなしているのかと思っていたのですが、今回の取り組みを通じて、イメージがガラッと変わりました。『良い製品だから買ってもらえることが理想』を体現しているお店だと思いました。障がい者の働きを支える人の想いが実現されていると気付きました。社会に訴えかけ、ソーシャルアクションを起こすことで知ってもらえること、声をあげる重要性について考えることができました」

「私が発見したことは事業所で働く方々が生き活きとしていたことです。当初は障がい者就労支援といっても(障がい者のある人は)仕事をさせられている受け身の状態だと思っていました。実際に現場で見た事

業所で働く人たちは仕事に対して想いや目標を持っているという主体性を発見しました」

「ご利用者は働くことに誇りをもっていることに驚き、またそのような職場環境をつくっている北摂杉の子会の方々がすごいと感じました。また『地域に生きる』という考え方が社会福祉と地域という関係性においてもとても素晴らしいことだと学びました」

「私は卒論のテーマを就労支援にしようと考えています。今回学んだ『障がいのある人がやりがいを持っているとはたらくには』という側面から卒業論文を書きたいと思います」

「1人でも多くの障がいのある人が働きやすい社会になればいいなと感じました。実際こういった経験はなかなかできないので、この経験を活かして就職活動に望みたいと思います」

♥今後の展望

秋からの3か月間という短い期間でしたが、上記のように、学生さんに主体的・能動的に考えていただける機会となりました。また、実際のバレンタインデー商戦では、チラシの作成や店舗での商品ラベルの改良、商品包装の見直しなどで、学生さんの意見を活かしましたし、知名度アップや売上アップにもつながっています。

来年度は約1年間の課題解決型授業を考えており、働いている障がいのある人の姿や想いに焦点を充てた「啓発イベントの開催」を課題として予定しております。本企画につきまして、今後も皆さまのご理解とご協力をいただきましたら幸いに存じます。末筆となりましたが、安田先生、ゼミ生の皆様、インタビュー等々でご協力いただきました方々に感謝いたします。



リサーチ活動

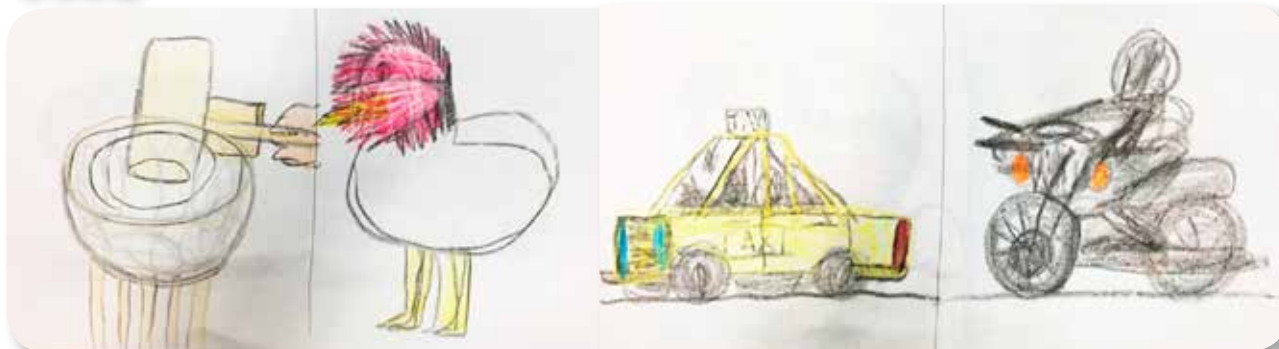


杉の子 いいね!

☆レッツ☆
クリエイティブ
アート!

当法人のご利用者には、様々な特技をお持ちの方や表現活動（絵画・詞・陶芸等）を行っている方がたくさんおられます。このコーナーではそういった活動を紹介しています。たくさんの読者に「いいね」「共感した」という想いを届けたいと考えています。

イラスト



餅つき

にわとり

タクシー

バイク

●スタッフのコメント 今回は、萩の杜ご利用者 田口敦夫さんの作品です。

毎週木曜日の夜に絵を描く日課になっており、支援員から描いて欲しいテーマをお伝えすると、テーマに沿ってご自身の記憶や感性を存分に発揮して絵として表現されます。独特タッチや色合いが素敵です。

ポエム

「大切なみんなへ～私の信念 一番うそをついてはいけない人 それは自分」

私は今まで、何度、普通になりたくて、
自分にうそをついてきただろうか。
そして、何度、傷ついてきただろうか。
一番大切にしたいのが自分なのに、どれだけ我慢してきただろうか
長い列の最後尾に並んで幸せになることを待つ自分に言いたい。
「君は今すぐ幸せになれるんだよ。君は幸せになっていいんだよ」
君はきっと、一度は疑うだろう。
「大丈夫。君自身を信じて。君が信じれば、願いはかなう」

「アルジャーノンに花束を の社長さんの言葉 ～お前はバカのままでいい」

私はよく『不器用だね』と言われる。
事実だから言い返しようがない。
それを言われるだけなら、傷ついて終わりだ。
だけど、私はその後に「もうしょうがないなあ」とか言われて、
助けてもらうことが多いに思う。
社長さんが咲人に言った言葉を借りるなら
「不器用なままでいい」だろうか。
私がいかに不器用すぎて、誰かのていねいな教える才能が
生かされることがよくある。
だからか、わからないけれど、不器用な私にも、
存在価値があるような気がする。

書道



●スタッフのコメント

「ある自閉スペクトラム症をもつ相談者は、自分に起きた出来事や考えていたことをA4用紙数枚に書き込み、月に一度の面談時に持参されます。とても苦しい想いが溢れていることもあるし、思わず笑い出してしまうようなものもあります。そして、理解されにくい「自閉症の世界」を当事者目線で教示してくれるような内容も少なくありません。「支援する側とされる側」という関係を超えて、深く響き、励まされるので、その一部を、是非シェアさせていただきたいです。」

●スタッフのコメント

「ご自宅で行われていた書道を、ぷれいす Be でも作品作りとして取り組んでみました。今後も日中活動の一環として取り組んでいただきたいと思います。」



北摂杉の子会のホームページ 更新情報

(平成28年12月～平成29年2月)

北摂杉の子会のホームページ (<http://www.suginokokai.com>) では、
 様々な法人の活動や情報提供をリアルタイムで掲載しております。
 過去3ヶ月のホームページ更新状況をお知らせいたします。
 ホームページでは、機関誌のバックナンバーもご覧いただけます。
 ご興味のある方は『北摂杉の子会』で検索して、ぜひアクセスしてご覧
 ください!

掲載ページ	内 容
各施設のご案内	ジョブジョイントおおさか 「働くチカラPROJECT」 実践報告会のご案内
	こども発達支援センターwill 平成29年度 療育児募集
	自閉症療育センターLink 平成29年度 療育児募集
	こども発達支援センターwill 平成29年度 療育児募集
	児童発達支援部 すぎの子はったつ通信 1月号
	自閉症療育センターLink 平成29年度 療育児募集に関する保護者説明会のご案内
	こども発達支援センターwill 平成29年度 療育児募集に関する保護者説明会のご案内
	アクトおおさか 平成28年度公開講座のご案内 「発達障がいのある人の教育場面における支援 ～高校卒業後の進学先選びと大学での支援～」
お知らせ	月刊「さぽーと」1月号に、児童発達支援部副部長 大澤佳世子が執筆
よどのコロツケ	よどのコロツケかわら版更新
	イベント販売&お知らせ
Café Be	ランチメニュー更新
	Café Be ミュージック・ディ情報更新



掲示板コーナー

(平成28年12月から平成29年2月まで)

法人本部総務部 掲示板

12月	行 事
5・19日	経営会議
9・21日	運営会議
8日	関西学院大学インターン説明会
	権利擁護虐待防止委員会
9日	ノートルダム女子大学 インターン説明会
	京都女子大学 インターン説明会
16日	医療連携推進室会議
	新入職員研修
20日	強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修
28日	総務管理会議

1月	行 事
11・23日	経営会議
13・27日	運営会議
	第105回理事会・第62回評議員会（高槻商工会議所 4階大ホール）
15日	第1号議案 定款変更の件
	第2号議案 理事・評議員選任の件
	第3号議案 評議員選任・解任委員会運営細則新設の件
	第4号議案 評議員選任・解任委員選任の件
20日	強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修
	医療連携推進室会議
25日	総務管理会議
27日	三市一町合同就職フェア参加

2月	行 事
4日	平成28年度 第4回法人研修（高槻現代劇場305号室） ・第3次中期5ヶ年計画のまとめ、第4次中期5ヶ年計画のビジョンについて ・第4次中期5ヶ年計画の説明 グループワーク&発表
6・20日	経営会議
10・24日	運営会議
10日	権利擁護虐待防止委員会
17日	医療連携推進室会議
	強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修
20日	第106回理事会（法人本部会議室） 第1号議案 評議員候補者推薦の件
22日	大阪樟蔭女子大学 学内説明会
	総務管理会議
25日	育児と仕事のワークライフバランスを考える会（現代劇場306号室）
28日	新入職員研修

(河辺 記)



育児と仕事のワークライフバランスを考える会

萩の杜 掲示板

「クリスマス忘年会」

平成28年12月23日 毎年恒例、萩の杜のクリスマス忘年会を実施しました。
今年度も、外食や、鍋パーティー、支援員がサンタさんに変身して音楽会を開催するなど、
ご利用者のニーズに合わせて楽しめるように工夫したプログラムに取り組んでいます。
紙面の都合上、一部の写真のみの掲載ですが、クリスマスの様子をご覧ください。



上 外食先で記念写真
右上 音楽会&クリスマス
パーティー
右 男たちの鍋祭り



「垂直避難訓練」

平成29年2月24日（金）に土砂災害を想定した「垂直避難訓練」を実施しました。高槻市の担当者によると、土砂災害時は土砂が萩谷総合公園方面に流れる事が予想されていますが、
万が一、萩の杜の建物を直撃した際は、1階付近に土砂が入ることが考えられます。そのため、1階に居室があるご利用者が2階に避難する訓練に取り組みました。



普段は2階へ上がる事が少ないので、ご利用者は戸惑った様子でした。
伝え方を工夫することと訓練を継続することが大切だと思いました。

避難の提示



「クリスマス忘年会」

12月23日にジョブサイトひむろ毎年恒例のクリスマス・忘年会を開催しました。

皆さんそれぞれに楽しい時間を過ごす1日となりました！



松代先生と一緒に
エアロビクスで
体を動かして楽しみました！



日頃の音楽療法の
成果を皆さんの前で
発表しました！



最後は全員で
一緒に楽器演奏をして
楽しみました！



当日の昼食は、東テストパルさんに特別な
クリスマス弁当を作ってくださいました。
爽やかなフルーツの香りと色彩豊かな盛り付けが
印象的で味も最高でした！！



大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか

12月	行	事
5日	講師派遣：大阪府教育センター	教員向け研修
6日	地域支援マネージャー事業 泉佐野市・田尻町自立支援協議会	ケアマネジメント部会にて研修講師
8日	講師派遣：大阪府立咲洲高等学校	教員向け研修
9日	内部研修：「障がいのある犯罪行為者の現状と支援」 講師：山口県立大学 水藤 昌彦 氏	
12日	地域支援マネージャー事業 松原市自立支援協議会にて事例SV	
13日	地域支援マネージャー事業 箕面市自立支援協議会にて研修講師	
17日	平成28年度 発達障害者支援センター全国連絡協議会	近畿ブロック研修会
27日	熊取町にてペアレント・メンター派遣事前打ち合わせ	

1月	行	事
13日	内部研修：「発達障がいのある人の就労支援について」 講師：株式会社エンカレッジ 高橋 亜希子 氏	
18日	メンター派遣：豊中市 発達障がい疑われる子どもの保護者向け講演会	
19日	泉佐野市・田尻町基幹相談支援センターにて連絡協議会打ち合わせ	
23日	泉佐野市・田尻町自立支援協議会	定例会参加
31日	大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会	成人期ワーキンググループ

2月	行	事
1日	平成28年度 第2回大阪府ペアレント・メンター事業運営委員会	
4日	講師派遣：平成28年度三島ブロック青少年指導員連絡協議会研修会	
10日	平成28年度 第2回大阪府発達障がい者支援センター連絡協議会	
15日	障がい者就労支援推進セミナー シンポジウム「就労支援における専門職の役割」参加	
16日	メンター派遣：熊取町 障がい児を持つ親の会「たんぼぼの会」お母さんの勉強会	
17日	平成28年度 アクトおおさか主催一般向け公開講座 「発達障がいのある人の教育場面における支援 ～高校卒業後の進学選びと大学での支援～」 講師：信州大学 教授 高橋 知音 氏	
	平成28年度 第3回大阪府発達障害団体ネットワーク会議	
19日	平成28年度 大阪府ペアレント・メンター養成研修フォローアップ研修	

(内田 記)

2月17日 一般向け公開講座



児童発達支援部

○サポートセンター・PASSO

12月	行	事
5日	消火訓練	
10日	第6回 PASSOくらぶ（料理） *2名参加 第6回 PASSOくらぶ（科学発見） *3名参加	
28日～	冬期休暇	
1月	行	事
～3日	冬期休暇	
2月	行	事
4日	法人全体研修	
9日	平成29年度 新規療育児募集説明会	
16日	合同防災訓練（地震）	
27日	大阪市による実地指導	

（大澤 記）

○児童デイサービスセンター an

12月	行	事
2日	淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）ピアカウンセリング 淀川区自立支援協議会 子ども部会	
9日	第7回保護者研修Aグループ 淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）親子講座	
16日	第7回保護者研修Bグループ	
26日	避難訓練（防犯）	
28日～	冬期休暇	
1月	行	事
～3日	冬期休暇	
6日	第8回保護者研修Aグループ 淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）親子講座	
20日	第8回保護者研修Bグループ	
27日	淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）ピアカウンセリング	
2月	行	事
3日	第9回保護者研修Aグループ 淀川区自立支援協議会 子ども部会 淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）ピアカウンセリング	
4日	法人研修	
10日	淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）座談会	
13日	淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）ピアカウンセリング	
17日	第9回保護者研修Bグループ 大阪市専門療育機関連絡会	
18日	施設見学会	
24日	平成29年度新規療育児契約内容説明会 淀川区発達障がい児等子育て支援事業（淀川区委託）ピアカウンセリング	

♣ お子様の作品 ♥



学校の習字の時間にanを
思い出して書いてくれました☆



3人グループの共同作業で、
ひとつの作品が完成!

○こども発達支援センター will

12月	行	事
1・6~8・ 13~14・ 20~22・ 27日	高槻市巡回支援専門員整備事業（高槻市委託）	巡回相談
3日	平成28年度	児童発達支援部公開講座（高槻市開催）
7~8・ 12~13・ 19・21・ 26日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	三島圏域機関支援
9日	第7回	保護者研修Aグループ
16日	第7回	保護者研修Bグループ
17日	施設見学会	
28日~	冬期休暇	

1月	行	事
~3日	冬期休暇	
4~5・12・ 17~19・ 25~26・ 30日	高槻市巡回支援専門員整備事業（高槻市委託）	巡回相談
10・ 12~13・ 17・20・ 23~24・ 26・30日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	三島圏域機関支援
13日	第8回	保護者研修Aグループ
20日	第8回	保護者研修Bグループ
21日	施設見学会	
27日	第4回	実践交流会
28日	平成29年度	新入児募集説明会

2月	行	事
1~2・7・14~16・21~23・28日	高槻市巡回支援専門員整備事業（高槻市委託）	巡回相談
1・7・14・17・20・24・28日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	三島圏域機関支援
4日	法人研修	
6日	第3回	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）三島圏域圏域連絡会
10日	第9回	保護者研修Aグループ
	第6回	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）三島圏域育成事業
17日	第9回	保護者研修Bグループ
	第6回	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）三島圏域育成事業
24日	第5回	実践交流会

○自閉症療育センターLink

12月	行	事
1~2・8~9・15~16日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	北河内圏域機関支援
2日	第7回	保護者研修Aグループ
3日	平成28年度	児童発達支援部公開講座（高槻市開催）
16日	第7回	保護者研修Bグループ
28日~	冬期休暇	

1月	行	事
~3日	冬期休暇	
5~6・12~13・19~20・26~27日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	北河内圏域機関支援
6日	第8回	保護者研修Aグループ
20日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）北河内圏域来訪支援 大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託） 第2回北河内圏域 センター等交流会 第8回	保護者研修Bグループ
21日	平成29年度	Link療育児募集説明会
27日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	第4回従事者研修

2月	行	事
2~3・9~10・16~17・23~24日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	北河内圏域機関支援
3日	第9回	保護者研修Aグループ
9日	大阪府障がい児通所支援事業者育成事業（府委託）	第2回北河内圏域交流会
17日	第9回	保護者研修Bグループ

○こども発達支援センター az

12月	行	事
5日	平成28年度	茶話会（平成27年度サービス終了のご利用者対象）
9日	平成28年度	第2回施設見学会
19日	第7回	保護者研修
28日～	冬期休暇	

1月	行	事
～3日	冬期休暇	
23日	第8回	保護者研修
27日	平成29年度利用決定者	説明会

2月	行	事
5日	平成28年度	茶話会（平成27年度サービス終了のご利用者対象）
17日	大阪市専門療育機関連絡会	
19日	第9回	保護者研修

（谷岡 記）



スタッフとゲームで、
順番交代の取り組みをしています。
上手に待つことができています♪



保護者研修の風景。
皆様、毎回積極的に参加して下さいます！

ジョブサイトよど/ジェイ・ブランチよど掲示板

「よど/ブランチ 慰労会の様子」

家族会より頂いた慰労金で、慰労会を開催しました♪
ケーキや好きなお菓子を買ったり、ビンゴ大会をして盛り上がりました！
「おつかれさまです！」と素敵な乾杯の声も聴こえてきました。



「余暇プログラム」



「さをり織りにチャレンジ」



「初めての厨房作業にチャレンジ」



ドライブや調理・その他の活動も、皆さんとても楽しそうです♪

「バレンタイン限定コロッケ」



お楽しみパックを限定販売しました！

「よどオリジナルカレンダー 発売中！」



1冊300円で販売しています

ぷれいす Be 掲示板



ぷれいすBeでは今年も各チームで趣向を凝らしたクリスマス会を開催しました。
また、家族会有志による合唱団「コールつばさ」の
素敵なクリスマスソングも披露されました。



ジョブジョイントおおさか -たかつきランチ- 掲示板

12月	行 事
2日	企業見学会
3日	土曜クラブ
6日	企業見学会
13日	事業所見学会（高槻）
17日	土曜クラブ、就活のススメ（大学生事業）、 ジョブジョイントおおさかの会（忘年会）
27日	事業所見学会（十三）

1月	行 事
6日	じょぶよる（OB向けプログラム）
10日	事業所見学会（高槻）
21日	土曜クラブ、ジョブジョイントおおさかの会

1月	行 事
24日	事業所見学会（十三）
27日	成人のお祝いパーティ（高槻）
28～ 29日	OB旅行

2月	行 事
2日	企業研究講座発表会
13日	成人のお祝いパーティ（十三）
14日	事業所見学会（高槻）
18日	土曜クラブ、就活のハジメ（大学生事業）
25日	就活のハジメ（大学生事業）
28日	事業所見学会（十三）

（山田 記）

生産活動支援部 掲示板

ららしょこら たかつき

LaLa - chocolat TAKATSUKI

ホワイトデーに向けて、たくさんの商品を作っています♪



マンディアンに使う
サブレの製造をして
います♪



キウイにチョコ
コレートをつ
けています♪



くっつかないよう
に、チョコづけし
たキウイを均等に
並べています♪



萩の杜家族会 掲示板

12月	行	事
11日	イオンのイエローレシートキャンペーンに参加	
19日	家族会会長会議（本田会長出席）	
26日	安全対策委員会	
1月	行	事
11日	イオンのイエローレシートキャンペーンに参加	
22日	カトリック教会花販売	
26日	勉強会「認知症について」：家族会会員 18 名参加 講師：高槻市役所・長寿生きがい課より 2 名派遣頂く	
2月	行	事
10日	定例会 ・施設からの報告、安全対策委員会からの報告 ・各部会報告 ・29年度総会への提案と検討 新旧役員会	
11日	イオンのイエローレシートキャンペーンに参加	
16日	成年後見人制度勉強会（成年後見申立書作成の仕方について）	
18日	にゃんにゃん 1Day ショップ手作り市に参加（於：生きがい工房）	
21日	家族会会長会議（本田会長出席）	
23日	サークル萩（手作り品の作成と情報交換会）	
26日	カトリック教会花販売	
27日	安全対策委員会	

（植松 記）



サークル萩の風景

ジョブサイトひむろ家族会 掲示板

12月	行	事
6日	第3回定例会（高槻現代劇場206号） 出席者 会員40名 欠席17名 来賓 松上理事長 平野理事 森田施設長 木戸部長 ・地域生活支援部より現状報告 平野理事より ・家族会報告 東会長より ・ララショコラ活動報告 木戸部長より ・理事長挨拶 松上理事長より ・ジョブサイトひむろ活動報告 森田施設長より	
19日	家族会会長会（東会長出席）	
1月	行	事
15日	評議員会（東会長出席）	
24日	第5回役員会（法人本部会議室）	
2月	行	事
13日	嘱託医 真野先生との勉強会 「障がいのある方の老化」	
14日	第4回定例会（高槻現代劇場206号）終了後第6回役員会 出席者 会員39名 欠席18名 来賓 松上理事長 平野理事 森田施設長 ・松上理事長挨拶 ・生活支援部報告 平野理事より ・ジョブサイトひむろ活動報告 森田施設長より ・家族会報告 東会長より	
15日	後援会 臨時役員会（東会長出席）	
21日	家族会会長会（東会長出席）	
25日	父親会（がんこ高槻店）	

ひむろ父親会



日 時 平成29年2月25日（土） 17:00～

場 所 がんこ高槻店

参加者 法 人 松上理事長、佐々木理事

施 設 木戸ララショコラ管理者、森田JSひむろ管理者
伊名岡レジデンスなさはらサービス管理者

来 賓 まの・すぎのここどもクリニック真野医師

家族会 東、井岡、沖本、垣端、加藤、川合、久慈、高原、
登間佐、豊澤、干場、明定、森、山口、山田

合 計 21名・敬称略

お忙しい中、法人幹部並びに真野先生にもご参加賜り、楽しく歓談できましたこと、御礼申し上げます。

（加 藤）

ジョブサイトよど&ジェイ・ブランチよど家族会 掲示板

12月	行	事
3日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同役員会（ジョブサイトよど2階）	
5日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同定例会（淀川区民センター） ・「フロア・フリートーク（小グループに分かれての座談会）」 ジョブサイトよど家族会（出席者：12名） ジェイ・ブランチよど家族会（出席者：9名） ・家族会から（永井会長、玉木会長） ・施設からのお知らせ（田端施設長）	
19日	家族会会長会（法人本部402号室）（出席：永井、玉木）	
1月	行	事
14日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同役員会（ジョブサイトよど2階）	
15日	北摂杉の子会理事会・評議員会（高槻商工会議所4階大ホール）（出席：永井）	
23日	家族会合同懇親食事会（がんこ十三本店） ジョブサイトよど家族会（参加者：17名） ジェイ・ブランチよど家族会（参加者：6名）	
2月	行	事
15日	北摂杉の子会後援会 臨時役員会（法人本部402号室）（出席：玉木）	
18日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同役員会（アーリーアーク303号室）	
21日	家族会会長会（法人本部402号室）（出席：玉木）	

（永井 記）

ぶれいすBe家族会 掲示板

12月	行	事
8日	役員会（ぶれいすBe会議室） 出席者：10名（施設長を含む） 審議報告事項 ・法人への寄付手続きの確認と文書配布 ・次期役員アンケートの確定と配布 ・グループホーム問題：定例会以降の展開と今後の見通し→二つの文書の確定と配布 ①「グループホーム入居希望者の会（行動障がい対応型）の発足」 ②「追加希望者の募集：グループホーム入居希望者の会（行動障がい対応型）」 ・掲示板原稿の確認 ・機関誌『地域に生きる』の発送は、今後本部の管轄事項となる旨の報告。長年にわたる発送業務支援活動に対して、会長を介し、本部から謝意が表せられた。	
19日	家族会会長会（出席者厚東）	
27日	法人本部への寄付金の払い込み（北川・厚東）	
1月	行	事
12日	役員会（ぶれいすBe会議室） 出席者：8名（施設長を含む） ・法人への寄付の確認と本部（財務担当の結城氏）からのお礼メールコピーの配布 ・次期役員アンケートの集計→回答を尊重し第8期家族会役員候補をリストアップ ・来期の活動計画について（グループホーム問題に関して長期的に関わる必要性がある。役員業務を現状より増やさないために「父親の会」は当面休止） ・「Beどうし」原稿の確認（役員会を写真を用いて楽しく紹介）	
15日	北摂杉の子会理事会・評議員会（出席者：厚東）	
19日	参観＆ランチ（第5回）担当役員：笹尾、鶴野、西郷。参加者6名。	

2月	行 事
9日	役員会（ぶれいす Be 会議室） 参加者：10名（施設長を含む） 審議報告事項 ・第5回参観&ランチ報告 ・次期役員候補（12名の現役員中、3名が交代する）の確定 ・定期総会までの手順等の確認 ・グループホーム問題の続報
15日	北摂杉の子会後援会臨時役員会（出席者：厚東）
21日	家族会会長会（出席者：厚東） 新規契約者3名との面談（出席予定者：厚東）
22日	新規契約者1名との面談（出席予定者：厚東）
23日	新規契約者3名との面談（厚東）

（厚東 記）

自閉症スペクトラム児・者を支援する親の会 オアシス 掲示板

12月	行 事
3日	(社) 大阪自閉スペクトラム症協会主催講演会 参加・協力 「平成28年度公益財団法人 JAK 補助事業 学習相談会 自閉スペクトラム症のある子どもの自立をめざして」
5日	新澤先生を囲んでの座談会 テーマ『子育ての大切なポイント』について 会場：中之島中央公会堂 第4会議室 講師：新澤伸子先生 社会福祉法人北摂杉の子会 人材育成研修室 嘱託、 梅花女子大学心理こども学部心理学科教授、 TEACCH®公認臨床家
9日	オアシス役員会
10日	おやじの会（大阪自閉症スペクトラム協会との共催）

1月	行 事
14日	保護者研修 テーマ『大学生の支援の在り方』 主催：(社) 大阪自閉スペクトラム症協会 ※参加・協力 会場：大阪産業創造館 6階 会議室 講師：望月直人先生 大阪大学キャンパスライフ支援センター 特任准教授
17日	オアシス役員会
28日	オアシスサロン ※(社) 大阪自閉スペクトラム症協会との共催 会場：大阪市西区社会福祉協議会 にしながほり第一会議室 オブザーバー：エルム大阪 井上 芳子先生

2月	行 事
4日	公開講座 『自閉スペクトラム症、発達障がいの問題行動の対応』 (学齢期から予防できる問題行動への支援の在り方) 主催：(社) 大阪自閉症スペクトラム症協会 ※共催 講師：中山清司先生 (NPO 法人自閉症 e サービス代表) 会場：ドーンセンター 中会議室
12日	オアシス役員会

（坂地 記）



座談会

北摂杉の子会 後援会 掲示板

本会の活動に対しては萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよど、ジェイ・ブランチよど、ぷれいす Be 家族会の皆様を含めて多くの方々にご支援をいただいております。まことに、ありがとうございます。今後ともより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます

<会員数の推移>

12月 個人会員：461名、団体会員：25団体
合計：486名／団体 寄付：2件
1月 個人会員：462名、団体会員：26団体
合計：488名／団体 寄付：3件
2月 個人会員：462名、団体会員：27団体
合計：489名／団体 寄付：なし

(2017年2月末までの新規会員)

個人会員：42名、団体会員：4団体
合計：46名／団体

<報告事項>

- 1) 2017年2月末までに28件、508,000円の寄付、1,074,000円の会費、合わせて1,582,000円の資金を頂きました。ご協力ありがとうございます。
- 2) 2017年2月15日(水)に臨時役員会を開催
 - ・ 2016年4月～2017年1月までの経過報告
 - ①個人会員：462名、団体会員：26団体
 - ②寄付：28件
 - ③資金：約160万円(会費納入率は個人：65%、団体：65%)
 - ・ 主に新規団体会員の入会のお願い、今年度の法人への寄付などについて協議
 - ・ 2016年度定例役員会の開催予定
2017年5月24日(水) 15:30～16:30
場所：高槻現代劇場403号

(棚山 記)

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座まで。もしくは同封の振込用紙をご利用下さい。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

既に今年度、後援会会費をいただいた方には重ねてのご案内になりますことを、どうかご容赦ください。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座 北摂杉の子会
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱東京UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会
口座番号：5085555

～ 皆様の温かいご支援に感謝いたします ～

□ 法人へのご寄附に感謝いたします。(平成28年12月1日～平成29年2月28日)

河端良一 千場光一 森田豊子 植松芳哲 真野利之 福田啓子 吉川輝夫 匿名希望

□ 後援会入会と会費納入(平成28年11月28日～平成29年2月28日)

濱田誠治 玉木一彦 玉木はるみ 下川八重子 稲井由沙子 村本順子 辰巳良知 北村久美子 平尾欣子
中村義昭 八里いよ 松上文子 有田和弘 仁戸田照彦 赤尾浩子 中井淑子 田口道代 結城越代 白倉俊雄
田子森幸子 野口健司 伊藤 茂 今井広文 坂井恵美子 中村淑子 澤田隆生 増田桂子 植松芳哲 植松登志子
植松正機 植松信機 植松里枝 植松小遥 植松小絢 本田成美 篠原琴美 共和運輸株式会社
寺田軌道株式会社 代表取締役 寺田秀喜 特定非営利活動法人 あい・すまいる淀川
千里ハウジング株式会社 代表取締役 小山洋司 有限会社 北摂初田
松岡建設株式会社 代表取締役 松岡茂雄 高槻市教職員組合

□ 後援会への寄付(平成28年11月29日～平成29年1月15日)

赤鹿正隆 津田敬子 棚山薫晴 森田豊子 行成章子

□ 家族会へのご寄附に感謝いたします。(平成28年12月1日～平成29年2月28日)

ほかほか弁当 園田店 本田英世 森田豊子

□ 物品のご提供に感謝いたします。(平成28年12月1日～平成29年2月28日)

児島光子 折田民子 長井美代子 不二園芸 白倉三千子 藤岡紀子 赤尾浩子 澤田幸子 神田由美子

□ ボランティアに感謝いたします。(平成28年12月1日～平成29年2月28日)

ほかほか弁当 園田店 佐々木映世 平原悦子 坂井恵美子

(敬称略 順不同)

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会
理事長 松上 利男

発行所 北摂杉の子会

住 所 大阪府高槻市城北町1丁目6-8

発行日 2017年4月10日

定価100円

施設住所一覧

- **社会福祉法人 北摂杉の子会 法人本部事務所 人材育成研修室**
(法人独自の公益事業〈研修・講師派遣・コンサルテーション〉)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
[E-mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com
- **知的障害者生活施設 萩の杜** (施設入所支援・生活介護)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
[E-mail] haginomori@suginokokai.com
- **萩の杜ショートステイセンター ぶれす**
(短期入所・日中一時支援)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0130
[E-mail] breath@suginokokai.com
- **グループホーム とんだ** (共同生活援助)
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
- **グループホーム みやた** (共同生活援助)
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1 105号室
- **レジデンスなさはら** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
- **ジョブサイトひむろ** (生活介護)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
[E-mail] himuro@suginokokai.com
- **高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be**
(生活介護・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
[E-mail] placebe@suginokokai.com
〈短期入所〉TEL (072)681-4720
- **生活支援センター あんだんて**
(指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
[E-mail] andante@suginokokai.com
- **大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか**
(発達障害者支援センター事業)
〒540-0026 大阪市中央区内本町1丁目2-13
谷四ばんらいビル10F
TEL (06)6966-1313 FAX (06)6966-1531
[E-mail] act-osaka@suginokokai.com
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- **サポートセンターPASSO**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL&FAX (06)4862-5454
[E-mail] passo@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- **児童デイサービスセンター an**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-8990 FAX (06)6838-7015
[E-mail] an@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- **こども発達支援センター will**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
[E-mail] will@suginokokai.com
- **こども相談支援センター wish**
(指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル2F
TEL (072)605-1140 FAX (072)662-0056
[E-mail] wish@suginokokai.com
- **自閉症療育センター Link**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
[E-mail] link@suginokokai.com
- **こども発達支援センター az**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒558-0003 大阪市住吉区長居2丁目4-1 サンテ長居1F
TEL (06)6654-8777 FAX (06)6654-8780
- **ジョブサイトよど** (生活介護)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
[E-mail] yodo@suginokokai.com
- **ジェイ・ブランチャよど** (就労継続支援B型)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目3番10号
TEL (06)6303-9430 FAX (06)6195-3710
[E-mail] yodo_branch@suginokokai.com
- **ジョブジョイントおおさか**
(自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007
[E-mail] jj@suginokokai.com
- **ジョブジョイントおおさか たかつきブランチャ**
(自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒569-0072 高槻市京口町9番3号 関西産業ビル1F・4F
TEL (072)668-1123 FAX (072)668-1165
[E-mail] jj@suginokokai.com
- **法人自主製品店舗 よどのコロッケ**
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目10番10号
TEL (06)6306-4096
営業時間：10：30～17：00(土・日・祝定休)
- **「LaLa-chocolat (ララ ショコラ) /TAKATSUKI」**
就労継続支援B型
〒569-0091 高槻市城北町2丁目13番2号
TEL (072)668-5055 FAX (072)668-5081
営業時間：10：00～19：00(日・祝休み)

※■は行政よりの委託事業